

令和3年度第1回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和3年度第1回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和3年6月30日（水）午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所 大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 小岩邦弘委員(会長)、徳谷喜久子委員(副会長)、阿部新一委員、砂金文昭委員、泉賢司委員、伊藤清里委員、伊藤拓也委員、大内早智子委員、大沼佐樹子委員、尾形亜紀子委員、齊藤裕美委員、佐藤柗平委員、佐藤伸哉委員、東海林訓委員、菅原君代委員、菅原敏委員、館山壮一委員、千田久美子委員、千田博委員、永澤光宏委員、廣長千鶴子委員、三浦幹夫委員、吉田正弘委員、若山義典委員
(欠席委員：小野寺千絵委員、小山亜希子委員、佐藤弘子委員)
 - (2) 事務局 勝部修市長（途中退席）
菅原稔市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課政策推進係長、熊谷尚孝政策企画課主任主事
- 5 議題
 - (1) 一関市総合計画後期基本計画について
 - (2) 年間スケジュールについて
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 0人
- 8 勝部修市長挨拶

総合計画審議会は、一関の行財政を運営していくに当たって基本指針を定めていくものであり、まちづくりの方向性を示す大事な役割を担っている審議会である。今年度から後期基本計画がスタートしているが、今が一番の節目である。そのときに、27人の委員に委嘱させていただいた。継続して委員をお願いした方が15人、新たに委員として委嘱させていただいた方が12人であり、合計27人の方に今後、市の総合計画後期基本計画に定めている取組について、様々ご意見をいただきたいと思う。

一関のまちづくりについては、ちょうど、駅東口のNEC跡地について意見交換をスタートさせたところである。昨日までで、第6回目まで実施した。一関高専の学生や一関青年会議所など、様々な団体の方々と意見交換させていただいた。これからも、広く様々な団体からご意見を頂戴し、一関のまちづくりを考えていきたい。確かにNEC跡地の面積は広いが、計画の立て方によっては狭いと感じている。どう絵を描くかという

ことが大事である。例えば、昨日も一関工業高等専門学校の学生の声聴いてみたら、どこか我々の感覚と違う。何が違うかと言えば、ほとんど県外からの学生であり、県外から見た一関という見方をしているので、気付かされることが多い。そういうことを大事にして積み上げていきたい。何回も意見交換の場を持って積み重ねていきたいと思う。

駅西口についても、一関商工会議所さんが市民の皆さんと委員会を作って、まちづくりの基礎となる部分を議論していただいております、さらにそれを深掘りしていく段階だと思っております。駅西口に関する商工会議所さんが積み上げてきた部分、駅東口に関して、現在、意見交換を進めているNEC跡地の部分、それを繋ぐ駅の東西自由通路を何とかしなくてはならないと思っている。先ほど挙げた3つを同時進行で議論をしていく中で、初めて一関の中心部のまちづくりの絵が仕上がっていくと思う。

私は、東西自由通路の完成なくしては、本当の意味での新一関市の合併に結び付いていかないと感じている。西、東という分け方をよく聞くが、それが一ノ関駅の西口・東口で分かれたまま、自由に行き来できないという状態のままでは、一関市の絵は描けないと思っているので、そういう点も含め、忌憚のないご意見をいただきたい。皆様方からのご意見一つ一つを積み上げていって、立派なものに仕上げていくことは、ここにいる職員がしっかり対応いたします。

以上、開会にあたっての挨拶と代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

9 会長及び副会長の互選

会長に小岩邦弘委員、副会長に徳谷喜久子委員が選出された。

(1) 小岩邦弘委員(会長)挨拶

ただ今、会長に選任となりました小岩邦弘です。よろしくお願いいたします。前回に続いて、この審議会の会長となります。議事を進めるに当たって、皆さんの協力をいただきながら、審議会の会議時間内に会議を終えられるよう、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(2) 徳谷喜久子委員(副会長)挨拶

徳谷と申します。前回に引き続き、副会長に選任いただきました。隣に会長の小岩会長がおりますので、会議の中で少し気が付いた所を簡単にお伝えする位になるかもしれませんが、今後もよろしくお願いいたします。

10 審議内容

(1) 一関市総合計画後期基本計画について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 第1部重点プロジェクトの、「プロジェクト2 I L Cを基軸としたまちづく

り」の部分だが、今、新型コロナウイルス感染症の影響でICTを活用したりモートや、そういった環境がどんどん進んでいる。ILCについても北上高地がその中心の都市になるような傾向だと思うが、そのICTの活用によって、想定している規模が増減することや、設備だけが一関市に必要で、研究する研究者は一関市に来なくなることがあると、元々の計画とは異なってくると思うが、その辺りの構想はあるのか。

事務局 ILCの構想については、国際的な研究機関で描いているが、今現在、アメリカやヨーロッパ各国のILCに対する協力については取り付けており、後は、日本政府がどのように判断するか、という段階には入っていると聞いている。では、実際にどこの場所かというと、北上高地のある水沢から大東、主に大東の地域、そして南下して室根のあたりまでの、大体20キロ位の長さで、研究施設を建設するというのが構想の内容となっている。よって、ICTの活用が進んでも、その研究施設は必要であるので、研究施設が建設されれば、これはもちろん構想の段階だが、研究者も当然来ることが想定される。研究者同士の間ではリモートでのやり取りというのも当然出てくると思うが、やはり実際に研究施設がある所での活用になるので、そういう計画で進めている。

委員 前期基本計画の時は、各世帯に前期基本計画の概要版が送付されていたと思う。今回の計画は、広報や市のホームページなどで周知しているのか。せっかく作った計画を市民全体で周知する方法について、どのように考えているのか聞かせてもらいたい。

事務局 周知方法について、今回の後期基本計画は、今年の広報5月号に折り込む形で、既に全世帯に概要版を配布している。また、ホームページには、概要版と合わせて全体計画の分も掲載している。全体の分は分量も大きいですが、ご確認いただければと思う。

委員 ILCについて、一関では歓迎ムードだが、そうではない意見や国際的な判断もあると思う。何が起こった時に一関がILCの推進をストップするのか、どの部分で判断するのか教えていただきたい。

事務局 私の役職では、回答できることも限られる質問であるが、もちろん、今の段階では安全だという事で、県や研究機関と一緒に市としてILCを推進している。万が一、ILCに危険性や、そういったものが把握、確認されるような事態になれば、当然そこで判断が求められると思っている。ここでは、そこまでしか言えないところである。

委員 では、ILC推進から退く判断ポイントは、今の時点では決めていないとい

う事か。

事務局 そういうことである。

委員 後期基本計画51ページ「プロジェクト3 東日本大震災からの復旧復興」の施策の展開（1）の③に記載されている、側溝土砂や学校施設に埋設している除去土壌の処理について、これから雨が多く降る季節となってくる。そこで、側溝にある土砂が気になっており、土砂があると、どうしても水が溜まる量が少なくなってしまう。この冬、雪が多かった時に側溝の網を外して、雪を側溝の中に入れた際、まだ土砂が残っていることに気付いたという話も聞いた。まだまだ対応までに時間がかかるというのは聞いているが、できるだけ早く土砂を上げる対応は、どうなっているのか教えてもらいたい。

事務局 側溝土砂について、まだ環境省からの対応指針が示されていないという状況である。市からも県を通じての要望や、市長会などからの要望という形で解決に向けて進めている。溢れ出した時には、市が管理しているところについては市で対応することとしているところである。この点も含めて課題が残っているので、東日本大震災からの復旧復興を重点プロジェクトに位置付けている。

(2) 年間スケジュールについて

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 市の人口ビジョンは昨年10月改定したとのことだが、昨年実施した国勢調査の結果が出るので、最新の結果に基づいた人口ビジョンを改定する考えはあるのか。

事務局 2020年の国勢調査の結果の速報が先般発表されており、現在推計している人口ビジョンと若干差はあるが、推計値の流れとして、ほぼ乖離はないものと捉えているので、人口ビジョンの改定について今のところ考えていない。

委員 市役所1階ロビーの入口のところに、毎日人口が掲載されており、今日、早速拝見したところ、11万2,500人位であった。後期基本計画の13ページに令和2年の予測として11万2,000人とあり、今日現在の人口が11万2,500人なので、ほぼ予測どおりと感じている。

事務局 人口ビジョンについては、これまでの推計値を基に算出したもので、概ね今のところ推計どおりになっている。減少しているので残念な結果ではあるが、なるべく減少幅を少なくしていくために、別計画として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定している。総合計画を上位計画として、総合戦略を別立てで構成している。

委員 このスケジュールの進め方の部分で、配布されたアンケート結果の2枚目に

令和3年度第2回の総合計画審議会の中で、ワークショップ形式で検証するという事が書いてあるが、その事についてスケジュール説明で触れられなかったが、どの様に進めるのか教えてもらいたい。

事務局 ワークショップの進め方については、第2回審議会の中でそういった機会を設けたいという事務局案である。今後、会長、副会長と相談し、進め方を決定していきたいと思っているので、その際にご協力いただきたい。

委員 スケジュールとは離れるが、アンケートや資料について、希望者にはデータでいただくことはできるのか。

事務局 希望される方については、データで提供する。

委員 SDGsの為に、ペーパーがいない方はぜひ協力していきましょう。

11 その他

事務局から、前総合計画審議会委員に実施したアンケート結果について説明を行った。

12 担当課 市長公室政策企画課